

第1号の1様式

6 杉下子発第 18号
令和7年3月13日

杉並区教育委員会 宛

子供園名 杉並区立下高井戸子供園

子供園長氏名 五十嵐 美緒子 

令和7年度教育課程について（届）

このことについて、杉並区立子供園の管理運営に関する規則に基づき下記のとおりお届けします。

記

1 教育目標

(1) 子供園の教育目標

“しあわせいっぱいの子供園”にするために、次の教育目標を掲げる。
もりもりそだつ げんきながらだ
たいせつな なかまとじぶん
かんじる こころとあたま

(2) 子供園の教育目標を達成するための基本方針

- ① 心も体も弾む体験を積み重ね、自ら体を動かして遊ぶことを楽しみ、健康で安全な生活を送ることができる幼児を育てる。
- ② 他の幼児とのかかわりを通して、自分とは異なる思いや考えがあることに気付き、互いに認め合い、受け入れ合おうとする幼児を育てる。
- ③ 身近な環境に自ら関わり、作って遊ぶことを繰り返しながら、知的好奇心や思考力の芽生えを培い、遊びの主体者として夢中になって遊ぶ幼児を育てる。
- ④ 仲間と協同して遊びや生活を進める経験を重ねる中で、様々な感情体験を通して、一人では味わえない達成感や課題を解決していく意欲を育む。
- ⑤ 「幼児期の終わりにまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、子供園と小学校が互いの教育の内容や方法、子どもの育ちに関する理解を深めて交流活動を推進するとともに、幼児の小学校生活への期待を高める。

2 指導の重点

(1) 教育課程編成、実施に関わる指導の重点

① 3歳児

- ・教師との信頼関係を基盤に、自分のしたい遊びを見付け、夢中になって遊ぶ楽しさを味わえるようにする。

- ・基本的な生活習慣を身に付け、一人ひとりの幼児が安心して過ごせるようにする。

② 4歳児

- ・友達や教師と一緒に過ごす中で、感じたことや考えたことをのびのびと表現し、興味、関心を深めながら夢中になって遊ぶ楽しさを味わえるようにする。

③ 5歳児

- ・友達とのつながりの中で共通の目的をもち、考えを出し合ったり協力したりしながら夢中になって遊び、自分たちで遊びや生活を進める充実感、達成感を味わえるようにする。

(2) 環境の構成

- ① 幼児が自ら選んで環境に関わり、夢中になって遊ぶ楽しさを味わえるよう、保育室や園庭等の環境が、幼児の実態を捉えた魅力的なものとなるように工夫する。

- ② 幼児が思いや考えを表現したり他の考えを受け止めたりする機会を意図的に取り入れ、教師も含めた他者との対話的な関わりを十分に経験できるようにする。

- ③ 遊びや行事等、他者との共通体験を豊かなものにし、個々あるいは友達との遊びに生かされたり、学級全体の活動に展開したりする遊びの往還をすすめる。

- ④ 幼児一人ひとりが園および学級で大切な存在として、安定した心持ちで園生活を送ることができるよう、教職員が多面的に幼児理解を深め、組織的に幼児の育成を支える。

(3) 特に重点を置いて指導する内容等

① 安全教育

- ・学校安全計画を基に、幼児の実態に応じた「生命（いのち）の安全教育」の取組を実践し、自分自身と周りの人の心身の健康と安全を守ろうとする気持ちの基礎を培う。
- ・幼児の安心、安全を守るために、定期安全点検を通して施設・設備の管理を徹底するとともに、安全な過ごし方について幼児が自ら考え行動できるよう、安全指導内容を明確にする。

② 特別支援教育

- ・園長が主催する園内委員会の実施を通して、幼児の具体的な姿から環境の在り方を見直し、全職員で共有する。また、特別支援教育コーディネーターを中心として、家庭や関係諸機関と連携し、幼児理解を深め、一人ひとりに応じた環境の工夫と援助を通して、幼児が育ち合う学級づくりを推進する。

③ その他

- ・教育課題研究に取り組み、幼児が夢中になって遊ぶ姿を支えるための環境について理解を深め、実践することで幼児の遊びと生活の充実を図る。
- ・保護者が幼児の健やかな成長を支え安心して子育てに向かうことができるよう、担任をはじめ、どの職員にも気軽に相談できる雰囲気作りを通して家庭との連携をすすめる。
- ・長時間保育児が一日を通して安心して過ごせるよう、幼児の心情に寄り添った関わりや実態に応じた環境構成を工夫する。
- ・行事の取組や教職員の学級事務の進め方、分掌の在り方等について見直し、共有すべき情報の集約の手立てを工夫するなど教職員間の連携を密にして働き方改革を推進する。